



佐野短期大学学報

か た く り

入学特集号

発行/佐野短期大学

栃木県佐野市高萩町973

電話(0283)21-1200



祝入学

佐野短期大学
創立15周年記念



大学の主な行事

(春期)

4月4日 オリエンテーション(7日迄)

4月6日 入学式

4月8日 1年生学外合宿研修(9日迄)

4月11日 春期授業開始

5月1日 創立記念日

7月26日 春期定期試験(8月2日迄)

8月2日 夏期休業開始(9月17日迄)

8月19日 成績発表

9月22日 秋期オリエンテーション

9月26日 秋期授業開始

新入生に贈るメッセージ



豊かな心と豊かな人間性を

理事長・学園長 池田 健次

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今日から本学での新しい学生生活が始まります。それぞれが希望と期待に心躍らせていることと思います。本学での 2 年間の生活が皆さんの将来を創造する上で大きな糧となることを心より期待いたしています。

入学式にあたり、所信の一端をお話します。

皆さんが生まれ育った社会は「飽食の時代」と評され、衣食住全てに満たされた環境の中で成長されました。さらに社会の発展に伴い価値観の多様化が進み、単一的な生活様式から個々の嗜好に重きを置いた生活様式へと移り変わってきました。このことは生き方そのものにも大きく関わってきています。

まさに「個の時代」の到来であります。このことが 20 世紀の反省にもとづく、新たな世紀の新たな息吹きであるとしても、些か不安な気持ちを抱くのは私ひとりだけではないと思います。

過去の歴史をみても、社会の変革期には「影と光」が共存することが常であります。しかし、その中にある人も人が人として生きる上での不易なことが数多くあります。その不易が流行の熟成されたものであるとしても、すべての面で「賑やかな社会」に翻弄されているのが、今の私たちではないでしょうか。「個の時代」の中で「個性や自由の尊重」が声高に叫ばれています。しかし人間が社会的存在であることを考えるとき、「個性」や「自由」の対面社会があることに気づくことが大切であります。

先日あるホテルの支配人の方から、「今、若者にはバイキング料理が好まれる」との話を伺いました。その理由は好きなものを好きなだけ食べられるからだそうです。私たちの世代の者にとっては夢のようなことです。しかし、この「好きなものを好きなだけ」が食生活の範囲にとどまっているならば、それはそれで良いのでしょうか。しかし、人間関係や職業・学習にまで及んだとした

ならば問題であります。特に人間形成の過程にある青少年にとり憂慮すべきことであります。好きな人間、好きな教科、好きな仕事のみを追い求めそれらにのみ興味関心を示さないとしたら生きる上では楽であっても、自分を高めることには結びつきません。豊かな人間性、豊かな教養は広範囲な経験の中から身につくものであります。

皆さんは、新渡戸稲造という方を知っていると思いますが、旧五千円札の肖像になっている人です。「我、太平洋の架け橋とならん」の言葉を残した歴史に残る外交官であり、その功績を称えて、カナダ国ではバンクーバー州立大学 (UBC) 校内の太平洋を見下ろす丘に記念庭園を造り、胸像を建て顕彰しています。

新渡戸は 1862 年盛岡に生まれ、クラーク博士で有名な札幌農学校に学びさらに東京帝国大学 (現東京大学) で経済学と英文学を学びました。そのときの主任教授が「農学校を卒業した男がどうして英文学を学ぶのか」との問いに答えた言葉が「太平洋の橋になりたい」でありました。その後アメリカに続いてドイツへ留学し帰国後は教育者、学者、官吏、宗教家、外交官政治家として活躍致しました。それぞれの分野で一流の人物でありましたが、それは幅広い知識がお互いに共鳴し合い素晴らしい実績に結びついたからだと思われま

す。このことは、単に彼だけに言えることではなく、広く後世に名を残した人々は幅広い知識と深い専門性に裏打ちされた豊かな教養と人間性を兼ね備えていました。専門性に長けることは生きる上での大きな力となりますが、その力を十分に発揮させるものが心の豊かさであり、豊かな人間性であります。

皆さんは本学での生活の中で、多くの人々と交わり、多くの学問に触れ、青年期しか味わえない喜び・悩み・苦しみ等を通して、21 世紀を担う心豊かな青年に成長されることを期待してお祝いの挨拶とします。



新入生に贈るメッセージ



自分の頭で考えて行こう

学 長 谷 島 一 嘉

学生諸君のご入学を心からお祝い申し上げます。

諸君にはこれから 2 年間、この佐野短期大学で学んで、いろいろな資格にチャレンジして社会に出る準備をし、あるいはさらに上の四年制の大学を目指して勉強に励み、また学園生活を大いにエンジョイして、という日々が待ち構えています。たぶん皆さんはこれからの学園生活に対して、大きな期待と、ちょっぴり不安を抱えていることでしょう。まずはサノタンに慣れて、無事に卒業できるように努力してください。また、先生方がしっかり指導して下さいますが、実習に出ればすぐに挨拶がきちんとできるかどうか、マナーを守れるかが問われます。挨拶がきちんと出来、マナーをきちんと守ることが学園生活の第一歩なのです。今までおうちで甘やかされて、挨拶などがきちんとできなかった人はぜひこれからでも遅くないので、きちんと挨拶する習慣を身につけてください。

感受性が豊かな、人生で一番大切な時期を新しい友人たちと共に学び、遊ぶ時期がこれからの 2 年間なのです。このサノタンでの友人や先生方との出会いを大切にするとともに、目まぐるしく情勢が変わる世界の中で、自分を見失わないでこれからの長い人生を生きて行くために、ぜひ自立する習慣、つまり自分自身で考え、自分の

責任で行動する習慣を身につけてくださるようお願いいたします。今、自分の頭で考えよう、という教育目標がこのサノタンで実施されています。

2 年間の学園生活を充実させるために、本学ではクラブ活動に力を入れています。講義や実習が大変で時間を見つけていく実情かもしれませんが、ぜひクラブや同好会に積極的に加入して、友人、先輩、先生方との交流を深めてください。ここにも一生の思い出になる出会いが待っていることでしょう。地方から一人で佐野に来て心細いような人がいたなら、クラブ活動は友人を作る絶好の場だと思えます。

世はまさに情報化時代です。インターネットや最近では携帯からでもとにかくほしい情報が手に入ります。その情報が正しいとは限りません。特にテレビや新聞は偏った報道をすることがあります。溢れる情報の洪水の中で自分が必要とする情報はどれか、言っていることは本当か、何が正しいことを自分で考えて判断することが大切なことだと思えます。2 年間の学園生活で自分をしっかり磨いて、これからの長い人生に大切な知性と教養を身につけてください。2 年後には全員がサノタンに学んでよかったと、誇りを持って卒業されることを期待します。



人 事

()は前任

〔新規採用〕 <H17.4.1>

専任講師 大塚 登
 兼任講師 加藤 道久 林 幸男
 提箸久美子 旭 久美子
 松本 安司 小林 研介
 立島 和恵
 進路指導課長 亀田 英三
 総務課長補佐 嶋森 広樹
 図書館司書 松田 和子
 総務課 森田 拓男

〔昇格〕 <H17.4.1>

教 授 橋本 佳子 (助教授)
 助 教 授 小林 大輔 (専任講師)
 大熊 信成 (専任講師)

〔任用換え〕 <H17.4.1>

特任教授 吉本 義人 (兼任講師)
 清水 祥子 (兼任講師)
 特任講師 小竹 仁美 (兼任講師)
 石塚 将之 (兼任講師)
 兼任講師 加藤理津子 (特任講師)
 常勤職員 斎藤 彩 (入試広報室非常勤)

〔異動〕 <H17.4.1>

佐野日本大学中学・高等学校事務室 事務長兼総務課長
 佐藤 強 (事務長兼総務課長)
 事務長兼総務課長 長 充男
 (佐野日本大学中学・高等学校事務室総務課長)

〔配置転換〕 <H17.4.1>

総務課主任 堤崎 真里 (学務課主任)

〔退職〕 <H17.3.31>

専任講師 佐野 美奈
 特任教授 吉田 勇 田村 了一
 特任助教授 高橋 淳子
 兼任講師 曾根 栄子 平柳 要
 吉田 雄司 志村 聡子
 総務課 佐藤ひろみ 大島 邦夫
 図書館 西山 雅江
 入試広報室 村野 利雄 新島 規之

平成17年度 各種委員会委員長

常置委員会

学務委員会 稲見 崇司
 学生生活委員会 長江 弘晃
 進路指導委員会 長江 庸泰
 図書委員会 佐藤 秀一
 公開講座委員会 須江 國雄

特別委員会

入学試験委員会 谷島 一嘉
 自己点検評価委員会 大室 精一
 広報委員会 立川 聡子
 FD・将来構想委員会 谷島 一嘉
 ボランティア委員会 日比野 清

臨時委員会

第三者評価委員会 長江 弘晃
 施設整備委員会 村岡 民義
 図書館コンピュータシステム臨時委員会 稲見 崇司
 特色ある保育運営委員会 亀田 ケイ子

短期大学基準協会第三者評価

ALO (第三者評価
連絡調整責任者) 長江 弘晃
 評 価 員 佐藤 秀一
 國分 三郎

学報編集委員

立川 聡子・佐藤 秀一・古川 慎一・大熊 信成
 新井 文子・高橋登美子・藤田 睦・大橋 義成
 齋藤 彩